

令和4年度 事故防止委員会活動報告

事故防止委員長 山田 小百合

事故防止委員会は、各フロア及びセクションの長が集まりヒヤリハットレポートや事故報告書の傾向と対策を報告、それに対して委員会として更に多方向から検証を行う委員会となっている。

【令和4年度目標】

・薬の事故『0』を目指す。

【活動内容】

①委員会内で話し合った検討内容、話題に関しては、各フロア及びセクションの会議で報告、評価を行い、現場で周知徹底できる体制作りを行う。

②委員会内でも、半年に1回は薬に関する評価を行う時間を設ける。

③園内研修会を通して、マニュアルに沿った対応が行えているか、危険予測が行えているか等、繰り返し確認する機会を持てるようにする。(大勢の方に参加してもらえるような働き掛けも検討)

④2ヶ月に1回 事故防止ニュースの発行を行い、委員会内で話し合った内容あるいは薬に関する情報を発信する事で薬に関する事故防止の意識を高める。

【活動目標の達成とその成果】

①各フロア・セクションの会議で報告、評価の体制作りは出来ていたが、報告のみとなる事が多く、全員への周知及び評価まで行えなかった。

②薬の事故は多く、必然的に半年より多く評価せざるを得ない状況があった。しかし、評価はするが次の対策をどうするか曖昧になっていた事もあった。

③マニュアルや危険予測の確認はフロア会議である程度検討出来ていた。研修会の実施は出来たが、担当について検討が必要。責任を持ち行える仕組みを作った方が良かった。研修会への参加の呼び掛けは上手くできなかった。(他で超勤しているのに、と言う声が多かった)

④事故防止ニュースは定期的な発行はできなかったが、遅れての発行は出来た。読んだかどうかの確認は出来なかった。

【問題点及び課題】

・服薬ゼロを目指す取り組み体制

・服薬に対しては、慣れによる確認不足、思い込み、コミュニケーション不足が原因となっている。

・職員一人一人の意識が以前よりも低くなっている事を強く感じながら、どうすれば良いかわからなくなっている自分もいる。

・研修会の方法と担当の役割明確化

・事故防止ニュース発行について



【次年度に向けて】

- ・ 伝えなければいけない事（マニュアルや機器予測の確認）やユニット会議、フロア会議での検討後の評価について、声掛けの継続は行っていきたい。
- ・ 研修会、事故防止ニュースの担当は1人で行ってみる。

事故報告書まとめ（年間）

R4 年度	特養							ショートステイ							デイサービス							合計				
	転倒	転落	誤嚥 窒息	異食	薬	医療 処置	不明	その他	転倒	転落	誤嚥 窒息	異食	薬	医療 処置	不明	その他	転倒	転落	誤嚥 窒息	異食	薬		医療 処置	不明	その他	
4月	1				1			1																	3	
5月																									0	
6月	1								1							1								1	4	
7月								1		1															2	
8月					2											1	1								4	
9月	1				2			1																	4	
10月					2			1																	3	
11月		1			2			1				1													5	
12月					1																				1	
1月					2																				2	
2月	2								1				1												4	
3月		1																							1	
合計	5	2	0	0	12	0	0	5	2	1	0	0	2	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	33
部門 合計	24							7							2											

【特養】薬の事故「0」を掲げていたが、12件の事故が発生してしまった。

原因は、毎年同様の思い込み、コミュニケーション不足、マニュアル通りに行なわなかったと言う物。看護師のセットミスも多かった。